



第三十九回

西日本菊花大会 閉幕

内閣総理大臣賞に

和田 太義 (宇部市)

西日本最大の菊花の祭典、西日本菊花大会〔主催〓宗像大社菊花会(千々和正信会長)・宗像観光協会(吉武邦彦会長)、後援〓福岡県他)が、先月二十二日盛大裡に終了した。

この菊の祭典は昭和の大造営を奉祝し、昭和四十六年に第一回大会が開催され、今年で三十九回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約二百人から、丹精込めて育てられた菊約三千鉢が出品され、量ともに西日本最大級である。

開催にあたっては、宗像市商工会青年部、宗像大社菊花会、(社)宗像青年会議所、運送関係協賛会社の御奉仕をいただき展示された。



内閣総理大臣賞に輝いた和田太義氏の作品



「長い天皇の歴史に思いを致し、国民の上を思い」▼天皇陛下御即位二十年の奉祝式典が、十一月十二日国民の慶祝のうちに国をあげて盛大に執り行われた。その際の記者会見にて陛下は始めに冒頭の御言葉述べられた▼我国は建国以来、悠久の昔より皇室を中心に天神地祇の祭祀と共に二千有余年の歴史を継承してきた。これは平成の御代になりとも、何等変わる事無く、今上陛下におかれましても日本民族の司祭者の長として国家・国民の安寧を御祈念遊ばされている▼古来より天皇は国民を大御宝(おおみたま)と呼び、愛の手を差し伸べられ、国民はその天皇の心を大御心(おおみこころ)と呼び、愛の手に抱かれて生きてきた。その君民相互関係が日本の「形」であり、それを「国体」と呼んだ▼奉祝曲を奉奏した歌手のEXILEは涙を浮かべ歌い、奉祝茶会に招かれたピートたけし氏は「あの方自身が歴史そのものという感じで、自然に背筋がピンとして、声が出なかった」と語っていた。大御心は今も国民に灌がれ、国体は生き続けている。天皇の歴史とは日本の歴史であり、陛下御自身が神代から現代を共有する柱として表しておられる▼先日、オバマ大統領が来日し、陛下にお会いした際に、深々とお辞儀をした事を米国の一部のマスコミが批判をしたが、昭和天皇に拝謁したフォード大統領は緊張で足が震えたと言われている。万世一系とはその様な存在なのである。(床)



神具・装束・授与品

**井筒**

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567





内閣総理大臣、農林水産大臣、文部科学大臣の上位3位の作品は本館に展示されました



平成21年 祝 七又三 宗像大社  
キャラクターの菊花は撮影スポットでした



賑わいをみせた「菊みくじ」授与所



観光協会による飲食コーナーも好評でした



菊花会による苗売場

期間中境内では例年行っている、菊みくじ、菊苗売場、観光協会の設営、組立、菊花の運搬等の奉仕活動に家族連れの行列ができた。この大会にあたり、ハウスの前前で記念写真を撮ろうと展示されたキャラクター菊人形の前に行列ができた。この大会にあたり、ハウスの設営、組立、菊花の運搬等の奉仕活動に家族連れの行列ができた。この大会にあたり、ハウスの設営、組立、菊花の運搬等の奉仕活動に

次年度はいよいよ四十回と節目の大会となる。今回出品いただいた参加者一同すでに来年の大会へ向けて始動しております、例年にも増して盛大に開催したいと意気込んでおりますので是非お参り下さい。

十月二十九日、福岡県農業試験場園芸研究所 花き部 小代文明部長を審査長として審査が行われ、大輪・盆栽・懸崖・特作の四部門各々非常に厳しい出品基準、審査基準により厳正に審査された。本年は例年がない梅雨の長さ夏の日照不足など菊作りには多少気象条件が悪かったが、幸い台風の影響を受けることなく、十一月一日には多くの菊花が満開に咲き誇るこ

となり、上位三位に内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞が授与された。十一月十四日には高向宮司、吉武観光協会会長、千々和宗像大社菊花会会長、小代文明審査長、来賓として今期より福岡四区より選出された民主党衆議院議員古賀敬章氏も出席され、愛好家約百名が出席し、当社清明殿で表彰式が行われ、菊の講評や菊作りの苦労がなされた。

会による「いっぴく茶屋」、当社勅使館を茶席とした「茶房」を実施、さらに観光ボランティアの皆様による境内案内も好評な様子であった。期間前半は夏日を思わせる暖かさ、一方後半は例年以上の冷え込みとなるなど寒暖差の激しい中で開催となったが、週末を中心に境内は観菊者で大変な賑わいをみせた。さらに十五日にピークを迎えた七五三詣では、儀式殿前に展示されたキャラクター菊人形の前に行列ができた。この大会にあたり、ハウスの設営、組立、菊花の運搬等の奉仕活動に

ご協力頂きました多く皆様へ誌面を借り心より御礼を申し上げます。

各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

- |             |        |
|-------------|--------|
| 内閣総理大臣賞     | 和田 太義  |
| 農林水産大臣賞     | 時田 長光  |
| 文部科学大臣賞     | 長谷川 由紀 |
| 総務大臣賞       | 重光 善義  |
| 法務大臣賞       | 石橋 澄夫  |
| 外務大臣賞       | 野村 浩一  |
| 財務大臣賞       | 三井 弘治  |
| 厚生労働大臣賞     | 宮地 隆弘  |
| 経済産業大臣賞     | 森田 敬次  |
| 国土交通大臣賞     | 田中 佳信  |
| 防衛大臣賞       | 鳥田 友安  |
| 環境大臣賞       | 中野 善之  |
| 内閣官房長官賞     | 武家 間   |
| 衆議院議員 古賀敬章賞 | 社林 治   |
| 宗像大社宮司賞     | 川中 祐   |
| 〃           | 田川 志   |
| 〃           | 田畑 隆   |
| 〃           | 宮地 治   |
| 〃           | 船越 美   |
| 九州農政局長賞     | 越前 野   |
| 福岡県知事賞      | 原 初    |
| 〃           | 富田 直   |
| 〃           | 保田 伊   |
| 佐賀県知事賞      | 東 野    |
| 長崎県知事賞      | 野 世    |
| 熊本県知事賞      | 野 本    |
| 大分県知事賞      | 豊 原    |

※以下、受賞者につきましては、紙面の都合上割愛させていただきます。



観光ボランティアの皆様による境内案内所



# 沖津宮・中津宮 秋季大祭齋行

十一月一日筑前大島鎮座の中津宮において、宗像大社沖津宮・中津宮の秋季大祭が斎行された。この大祭は旧暦の九月十五日に斎行され、漁村である大島は漁止めとなり島全体を挙げての大祭となる。本年は辺津宮の月次祭と重なり、若干の諸祭典の時間が変更された。



大祭前日、高向宮司以下神職三名、巫女二名が渡島、中津宮境内は沖中両宮奉賛会、同翼賛会のご奉仕にて装飾、本殿西側には秋季奉納演芸大会の舞台等、大祭準備が全て整

えられていた。午後四時から宮司奉仕のもと沖津宮遷拝所、同五時より中津宮においてそれぞれ宵宮祭が斎行され翌日の大祭の無事齋行を祈念した。

大祭当日、早朝より降雨がみられたが、沖津宮秋季大祭、宮崎地区の厳島神社祭・島最高峰の御嶽山に鎮座する御嶽神社祭と予定の通り執り行われた。生憎の雨天ではあったが、島内外から多くの参列者を迎え、午前十一時から中津宮秋季大祭が高向宮司齋主、氏子奉幣使 塩川文幸氏しおがわぶんきつの奉仕のもと祭典齋行、巫女による浦安舞も奉奏され大祭は厳かに滞り無く修められた。

祭典後、降雨も激しく残念ながら奉納演芸大会は舞台を島の総合センターに移しての開催となったが、舞踊・お謡・カラオケと変わらぬ賑わいを見せ、夕刻には全ての演目も終了し平成二十一年度の秋季大祭は幕を閉じた。

## 第三十六回 宗像大社 秋季奉納盆栽展

恒例の秋季奉納盆栽展が、宗像大社奉納盆栽会（石松重敏会長）により十一月十二日（十六日）の五日間にわたり、本殿西側の境内で開催された。盆栽展は春秋の年二回催され秋は今回で三十六回を迎える当社の恒例行事となる。



十二日の午前八時から、会員、担当神職、管理員の手で会場の設営が始まり、会場が完成すると出品の盆栽を各地区より搬入。優美な黒松や五葉松などの松柏盆栽をはじめとして秋にふさわしい山柿・紅葉・姫林檎などの雑木盆栽や小品盆栽なども増して秀作を集めた開催となった。中でも当盆栽会々々

長 の 作 品  
は、日本 最 も レベ ル と 格 調 の 高 い 盆 栽 展 で 海 外 で も 認 知 度 の 高 い 「 国 風 盆 栽 展 」 に 展 示 さ れ た 黒 松 盆 栽 は 注 目 を よ せ、



会長出品の黒松

その盆栽だけに限らず展示された多くの盆栽の素晴らしさに観覧する参拝者はしばし足を止め、優雅な一時を過ごしていた。

この盆栽展は、宗像・福津両市の盆栽愛好家が「宗像大社の御神徳の発揚に努め、併せて会員相互の親睦を計り、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及盆栽技術の研鑽に励み、盆栽発展の一助とする」ことを目的に、宗像大社奉納盆栽会を結成して今日に至る。

期間中は生憎の雨となるも、濡れた盆栽も日の光を受けることにより、瑞々しく青々映え、参拝者に心地よい静寂な一時を与えた。

## 第三十四回 清香吟社宝山会 秋季奉納吟詠大会

十一月三日恒例の清香吟社宝山会による吟詠大会が、約六十名の会員が集い開催された。

明治祭齋行後の御本殿で正式参拝、宮崎透山氏（熊本）による格調高い吟が、続いて会員一同による合吟が奉納され迫力ある吟が境内に響き渡った。

続いて会場を清明殿に移した。

永年斯道の興隆に寄与された新宅苔山氏、馬場榮月氏、永江福江氏の三氏に高向宮司より表彰状と記念の三ッ組盃が贈られた。

式典後、会員による吟が次々と披露され、日頃鍛錬された自慢の喉が披露されると会員一同熱心に聞き入っていた。





# 第二十二回 宗像大社刀剣展 閉幕

菊薫る秋の恒例行事である「宗像大社刀剣展」が十一月一日から二十三日間、当大社神宝館で開催された。今年も、当大社へ奉納された刀剣とともに宗像周辺の刀剣愛好家ご自慢の刀剣など五十八振が一堂に会し、見ごたえのある展覧会となった。

会場には、当大社に残る江戸時代の福岡藩主黒田家奉納の刀剣や、人間国宝であった月山貞一が打った個人奉納刀などに加え、古刀期に製作の中心となる山城、大和、備前、相模、美濃とこの五ヶ国の流れを引いた各地の刀・脇差・短刀のほか、華やか且つ個性的な装飾を持つ小柄、こうがい、鐔、目貫などの小道具が陳列された。

刀剣は本来相手を攻撃する或いは自分の身を護るという用途も持つが、その優美な姿、刃文の不思議な輝きは戦闘の激しさ、恐ろしさなど想像できないほど驚きの静寂と美麗を放っている。これが人々の

心を魅了してやまない所以であろう。

来館者の顔ぶれは様々で、本展覧会を毎年楽しみにしている愛刀家、興味を持ちはじめて恐る恐る足を運んだ初心者、何もわからぬまま来て観て関心していく方などがいた。皆、自分の興味に従って鑑賞をすすめて、刀姿、鍛え肌、刃文、帽子、莖形、銘などをつぶさに観て刀剣の醍醐味を楽しんだり、刀剣や拵えの構造、部位などを確認したり、刀剣そのものの美しさをかみ締めたりしながら、展示を満喫しているようであった。

本年は天気にも恵まれず雨が降り続いたが足元の悪い中でも多数の方が来館された。開催にあたりご協力を賜った皆様に心より御礼申し上げます。



# 少林寺拳法奉納演武大会

十一月八日、午前十時より当大社本殿横で恒例の少林寺拳法奉納演武大会が、大人から子供まで約四十名が参加し開催された。

我が国の少林寺拳法は、宗道臣先生が大陸で伝授を受け戦後広められたもので宗像地区でも各所で教室が開かれ盛んに行われている。

演武大会は、宗像市少林寺拳法連合会(代表代行 三善康信氏)の主管により開催され、拳

士集合神前に一礼の後、拳法独自の鎮魂の儀式があり演武が始められた。

演武は、指導者・社会人の部、福教大拳法部、少年の部と三部に分かれ繰り広げられた。指導者の演武には、技法の成熟が伺われ福教大生のそれには若々しく力漲る姿があり、それぞれに拳法の素晴らしさを伝えるものがあつた。

その中で何より声援が上がつたのはチビッ子拳士による組演武であつた。技量はまだまだ未熟であるが何とか相手を組み伏せようとする姿に保護者らから盛んに歓声が響いた。

正午迄に全ての演武が終了、新型インフルエンザの影響で参加拳士も若干少ない状況で早めの解散となった。

少林寺拳法も我が国の武道として定着して久しいが、今回参加の腕白肌の少年拳士の中



から、未来の指導者、後継者が数多く生まれる事を期待する。

また、昨年には長年に亘り中心となつて指導されてきた同連合会の代表・神谷重信先生が御逝去されている。宗像地区における少林寺拳法の普及とこの奉納演武大会の発起・開催にも御尽力された故人の御冥福を心よりお祈り申し上げます。



# 第一回 博陽吟道会 秋季奉納吟詠大会



菊花香る十一月十二日、藤井陽月氏を代表とする博陽吟道会による秋季奉納吟詠大会が開催された。

名余りにより今年一月に結成され、吟道の出発を地元である宗像大社で行いたい

博陽吟道会は宗像・福津市に住む、吟歴様々な吟道の愛好家三十

との思いにより結成され、今回初の開催となった。

当日は午前十一時より本殿で正式参拝、藤井陽月氏による献吟、会員一同による合吟が奉納された。



続いて、清明殿に会場を移し、会員による吟が次々に披露された。午後二時には初めての大会を無事終了。会員一同今後の飛躍を誓い合い、境内中に咲き誇る菊花を愛でながら境内を後にされた。

## 宗像大社菊友会視察旅行

### 岩国市・錦帯橋菊花展を視察



十一月四日、宗像大社区に属する宗像地区の菊作り会「宗像菊友会(森弘喜会長)」恒例の視察研修会が実施され、森会長以下十四名に神社から二名の職員が参加し、山口県錦帯橋菊花展を視察した。

岩国菊友会の錦帯橋菊花展は第五十四回を数え、当社境内で開催されている菊花展より十年以上も歴史を重ねている伝統ある大会である。

展示された菊をみるとやはり、大輪・懸崖・盆栽・洋菊など色とりどりに咲き誇り、なかには錦帯橋を模った懸崖菊などその地の個性ある作品、展示方法などをされており参考になるところが多かった。来年の大会へ向け、会員一同刺激を受けた様子であった。

## 第四十五回 全日本菊花連盟全国大会 岩手県花巻大会視察報告

十一月十・十一・十二日の二泊三日の行程で、岩手県花巻市で開催されている第四十五回全菊連全国大会に審査員として参加された当大社菊友会千々和正信会長、西山時秋理事長に神職二名が同行、同大会をはじめ東北地方の社寺の菊花を視察した。

この大会は菊花日本一を決める大会であり宗像でも二度開催されたが、北海道・鹿児島まで全国各地、約九〇〇名より出品される。出品数は約五十種目一五〇〇花である。

会場はホテルの披露宴会場を全面使用し、所狭しと形・大きさ等全てにおいてレベルの高い菊花が展示され、その素晴らしさ美しさに圧倒された。

審査に加わった千々和、西山両氏は、真剣なまなざしで審査を行い、甲乙つけがたい見事な菊花の花に苦悩しながらも、



大会だ」と話されていた。

当大社で開催中の西日本大会が花壇(鉢植え)なのに対し、全国大会は全国各地から出品を募るため、運搬コストを考慮し切り花で開催されている。よって開催期間が短いのもこのためである。

大会視察後は、塩釜神社、中尊寺などしみのくの社寺を視察し、二泊三日の行程を無事終え帰福の途についた。来年は兵庫県・宝塚で開催される。

何とか審査を終え、「葉の一枚一枚にまで手入れがなせれ、さすが全国



# 厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習ではありますが、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

# 八方塞

はつぼうふさがり  
陰陽道でどの方向に向かつて事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめる方は要注意と言われています。

# 暗剣殺

あんけんさつ  
「九星術」でその年の五黄土星と相對する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

## 平成22年 厄年年齢表

昭和46年	昭和45年	昭和44年	昭和43年	昭和40年	昭和37年	昭和31年	昭和28年	昭和26年	昭和25年	昭和24年	昭和22年	昭和19年	昭和13年	昭和10年	昭和4年	昭和元年	大正9年	生まれ年
暗剣殺	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	厄
39	40	41	42	45	48	54	57	59	60	61	63	66	72	75	81	84	満90	
平成19年	平成13年	平成10年	平成5年	平成4年	平成3年	平成元年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和58年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和50年	昭和49年	昭和48年	生まれ年
暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	暗剣殺	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	厄
3	9	12	17	18	19	21	23	24	25	27	30	31	32	33	35	36	満37	



宗像六社



御朱印帳



交通安全反射守(小)

### 新しい授与品の紹介

初穂料 一、〇〇〇円

初穂料 二〇〇円

予てより、多くの参拝者から宗像大社の御朱印帳を頒布いただきたくとのご要望にお応えし、オリジナルの御朱印帳を奉製致しました。

当社「槽の葉」の御神紋に社名を入れ、紺と白二色をご用意致しました。

祈願殿授与所にてお受けいただけます。

このたび、自動車、自動二輪車に貼り付ける反射守に新色が加わりました。

これまでオレンジ色でしたが、視認性の向上、夜間反射力の増になる素材を使用し、多角的に遠くから反射するお守りとして紫、青、ピンク、黄色、緑をご用意致しました。

本殿または祈願殿授与所にてお受けいただけます。



## 古式祭の御案内

800年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

- 日時 12月13日(日)
- 祭典 午前6時～
- 祭場 宗像大社 本殿
- 御座 午前6時30分～一番座  
(一番座=50名ずつ、五番座まで)
- 会場 宗像大社 清明殿
- 御座料 1人=1,000円  
※御座券は当日午前6時～販売致します。  
(例年午前5時30分位から多くの方が並び始めます。)



## 除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の「罪」・「穢れ」を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年に当大社で行われてきた何百回という祭典の中でも最後の祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

- 日時 12月31日(木) 午後3時～
- 場所 神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに「人形」(男〃白女〃赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を「車型」にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。



## 交通安全 宗像大社 初詣

## 交通規制のお知らせ

### 期間

- 平成21年12月31日(木)  
午後10時から  
平成22年1月1日(金)  
午後8時まで
  - 平成22年1月2日(土)～1月4日(月)  
午前9時から午後7時まで
- ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

### 凡例

	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場





### 第五八〇回 宗像大社歌会詠草

大野展男選毎月25日メット



**評** 宗像市 浮羽町 向 則正  
うきは市 浮羽町 向 則正  
内子町の街道沿ひの木蠟屋蠟燭作る翁はひとり  
内子町は「母病める四国はるけし郷愁は今朝あさがほととなりてひら咲きたり」と詠った高野公彦のふるさとに近い肱川河口の古い町。寂れゆく町で廃れゆく産業を細々と守っている翁であり、おのずと公彦の詠う郷愁を呼ぶ一首である。

**評** 福津市 若木台 山崎 公俊  
高宮の黒き玉石欲しくなりぬ盗まむとしてふいの咳込みふと起つた邪心に天罰とも言うべき咳込に感じたおそれ、このままでもいいが、二句は「欲しくなり」結句は「咳込むふいに」と語句の流れをなめらかにしたい。

**評** 北九州市 八幡西区 遠藤 幸子  
銀香の葉敷かれし道の黄に染まりそのみ光湛えることし  
丁寧な描写し一種の気分をかもし出している。二句原作は人手で撒かれたようなので「散りしく」としたい。

**評** 北九州市 八幡西区 吉田ウト子  
咲き撓み低きに揺るる紅萩の葉の間を縫ふがにしじみ蝶とぶ  
この一首も遠藤作品に劣らず丁寧に詠われて、しじみ蝶の可愛いさが出ている。ただ、撓み、揺るる、縫ふ、とぶと動詞の多いのが気になる。

**評** 宗像市 日の里 大和美由紀  
青空にハートマークを描きをり航空シヨアの予行演習  
予行演習にリアリティーがあり本番への夢がひろがる。

**評** 宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子  
無花果は母の好みしものなれば一パック買ふ命日の今日  
リアルティーと言えはこの歌の四句もそうである。四句を中心に母を偲ぶ深いこころが見える。

**評** 宗像市 大島 杉田 禮子  
玄中の生徒が捧ぐ浦安の舞いに境内の風なごやかに  
生徒にそそぐあたたかい目差しが生んだ一首、玄中は略し過ぎなので「玄海中の生徒らが舞ふ浦安に境内の風なごやかとなる」と詠み直したい。

**評** 宗像市 田野 森 甲子  
宗像の神を迎ふるみあれ祭浦々の船波切りてゆく  
みあれ祭に寄せるところが生んだ一首だが、二句までは省いて走る船のさまを描写して欲しい。

**評** 北九州市 戸畑区 田中ハツセ  
金木屋一枝させば観郁と痛みを忘れ夜の眠りに  
金木屋への賛歌。三句は「良き句ひ」と大和ことばで結句は「眠りに落ちる」はいかがか。

**評** 福津市 若木台 野間 精一  
蜘蛛の巣の造化の妙のさまざまに秋の日霧らふ庭に見て立つ  
秋のひかりに蜘蛛の巣が一段と良く見えたのだろう。三句は「さまざま」では。

**評** 北九州市 八幡西区 豊田 光子  
秋彼岸お伽きに直り昼膳を旅の一会の人と向き合ふ  
袖振り合うも他生の縁。かかる時を互いに大切にしたいものである。

**評** 福岡市 南区 井田有久衣  
秋晴れの空見上げれば木犀のほのかな香り四辺に漂う  
素直なうた。だが素直すぎて没個性となっている。気を付けたいものである。

**評** 福岡市 南区 加野シノブ  
コスモス園色様々に咲き満ちて幼はじつと見つめ動かし  
この歌も前と同じ、二、三句に一工夫して欲しい。

**評** 選者詠  
このままに臥しるるままに迎へるか八十五回目の生れ日を  
配られし病院食を見届けて子は東京に帰りゆきたり  
妻と子の帰りにゆけば既に夕 げに秋の日はつるべ落しぞ

### 第五五五回 俳句作品集

宗像市 光岡 白土 凌一  
冬近しざんか苔み寒さ知る  
宗像市 平井 占部 詩子  
みあれ祭待つ流水の指定席

毎月1-15日 月次祭	13日
午前10時 高宮祭	午前6時~ 古式祭
第二宮・第三宮祭	午前6時30分~ 御座
引き続き 宗像護国神社	午前10時~ 鎮火祭
月命日祭(1日)	19日 松尾神社祭
巡 拝(15日)	午前11時~
午前11時~ 総社祭	23日 天長祭
浦安舞奉奏(1日)	午前11時~
豊栄舞奉奏(15日)	31日
	午後3時~年越しの大祝式
	引き続き 除夜祭

**編集後記** 気づけば師走。ある雑誌で今年のヒット商品が発表されました。ミネラルウォーター(いろはす)、ノンアルコール飲料(フリー)、国宝阿修羅展、懐かしの「ハイボール」、そしてETCによる「1000円高速等々」その中で断トツの第一位はトヨタプリウスでした。その時代の自動車を反映する当大社の「車破(交通安全祈願)」、数年前はワンボックスカー全盛だったのが、今日では右も左もプリウスといった状況です。▼エネルギー革命が本格化し来年もハイブリット車、電気自動車各メーカーから次々に投入されるようです。十年もすれば当大社の車破風景もハイブリット車や電気自動車一色になることでしょうか。▼年の瀬が近付くと慌たしさが増してまいります。どうかよいお年をお迎え下さい。(塚)

宗像大社社務所 発行所  
宗 像

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 葦津幹之  
編集人 大塚宗延  
制作 セネラルアサヒ  
印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円